

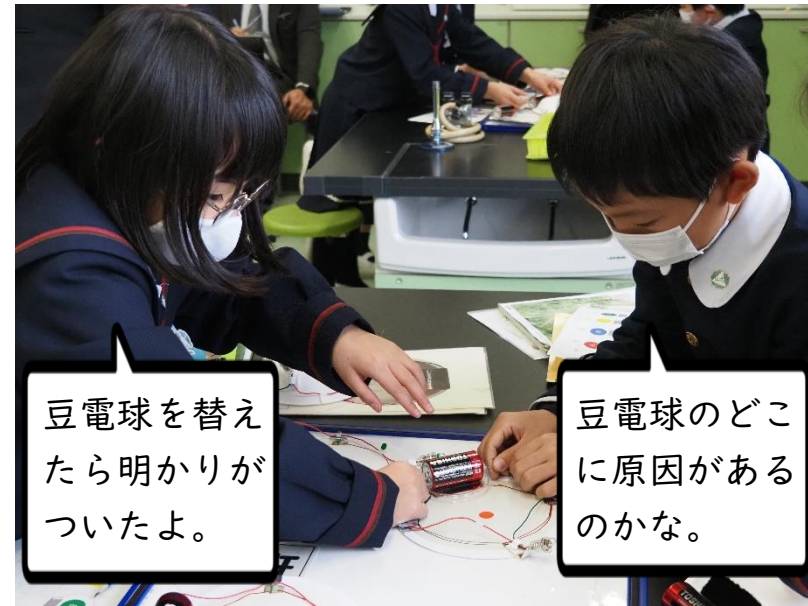
## つく つかない どっち ～新発見 回路の真実～

学習指導者 ふじい やすひろ  
藤井 康裕

本単元では、既習事項や友達との考えのずれから、子供たちの「なぜ」という思いを高め、回路が一つの輪のようにつながっているときに豆電球の明かりがつくことや、電気を通す物と通さない物があることを理解していきました。

本時の見通し場面では、一つの輪になっているように見えて明かりがつかないという既習事項とのずれから、「どうして明かりがつかないのだろう」という学習課題を自ら設定していきました。子供たちは、回路チェックリストを用いて、豆電球や乾電池、ソケットなどの道具のどこに原因があるか、考えられる原因を一つずつ突き止めながら実験していきました。

実験中の様子を写真で振り返ることで、取り組み方を具体的に想起できました。



### 考察

○明かりがつくはずなのにつかないという既習事項とのずれを生み出すことで、子供たちの学習課題を解決したいという思いを高めることができました。

●考えられる原因を一つずつ突き止める姿は見られましたが、回路チェックリストと実験道具をつなぐ視覚的支援が必要でした。

●写真を自動再生にすることで、教師からのより具体的な言葉かけもできたと思います。